
ノン=セクシュアル

森ゆのか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ノン・セクシユアル

【Nコード】

N0254K

【作者名】

森ゆのか

【あらすじ】

乳癌の患者に「乳房を全摘出して下さい。」と言われ、戸惑う主人公。

彼女は何故、自らの乳房を失う事を望むのか？

「乳房を全摘出して下さい。」

「今日はいいお天気ですね。」と言つような調子で患者が言った。

「ニューボウ?」「ゼンテキシユツ?」

専門用語が患者本人の口から発音され、一瞬何を言われているのか解らなくなった。

僕は思わず顔を上げ、彼女の顔を見た。

「患者との信頼関係を築くためにも、カルテばかり見ないで相手の顔を見て話すように」

研修医時代に指導医の先生からかなりしつこく言われたのにも関わらず、

僕は基本、患者の顔を見ない。

そちらに顔を向けているようでも、実は見ていない。

「病氣の人」に会うのは苦手だ。

「人の病氣」を治すのはやり応えがある。

相手の顔を見てしまうと、ついつい感情移入してしまって、

「病氣」と上手く向き合えなくなる僕は、医者としての資質に問題があるのかもしれない。

彼女の顔からは、何の表情も読み取れなかった。

やはり「今日は良いお天気ですね。」と言った後の様な顔をしていった。

「乳癌」

そう聞くと、たいていの患者はショックを受け、そして、なんとか乳房を温存できる方法を捜る。

摘出しなければならぬケースでも「即時再建」と言って、摘出手術と同時に新たに乳房を成形するのが一般的だ。

僕の勤務する「癌センター」は癌専門の病院で、他の医療機関で癌と診断された患者が来院する事が多く、シヨックを受けたり、取り乱したりするのを目の当たりにすることは少ない。

概ね、癌と向き合い、治療をするために来院するので、僕のような医者には良い環境だと思っている。

それでも、乳癌の患者さんは自分の「女性生命」を賭けて、自身の乳房を守り抜こうとする。

…のが、常だ。と思っていた。
今まで。

彼女の顔を見てしまった事に、少なからず慌てた僕は、平静を装いながらP.Cのカルテに目を移した。

七瀬ともみ

37歳

女性

既婚

腫瘍の大きさは3.2cm。

薬物療法で、小さくなれば温存手術で対応できなくもない大きさだ。切除 それも乳房全摘する必要はないと言える。

その事は前回の診察で説明した筈だったが…

「どうしてですか？ご主人、悲しみますよ。治療方針は…」
言いかけた時、

「私の乳房は、夫の性的快楽を満足させるためのモノですか？」

彼女が投げつけるように言った言葉に、僕は再び、彼女の顔を見てしまった。

年齢より2、3歳若く見える、少し前の清纯派アイドルを思わせる童顔。

それが先程までの、何も読み取れない表情とはうってかわって、

険しい 憤りとも悲しみとも取れるような憂いが加わって何故だが妖艶にさえ見える。

「…。」

僕は言葉を失った。

こんなケースは想定外だ。

百人の患者がいれば百通りの病状がある。

そんなことは承知していても、

ハンバーガーを注文されたら「お飲み物はいかがですか？」と聞くように

医者にだって、患者とのやりとりの基本形と言うモノがある。

10年も医者をやっていたいれば、幾通りものQ&Aが頭の中に蓄積されていて、

その中には、かなり突拍子もない患者の質問に対する対処もそれなりに用意しているつもりだった。

「私の体です。切除して下さい。」

重ねて発せられる彼女の言葉に思考がフリーズしてしまいそうになるのを懸命に抑え、

「僕の言い方がマズかったですね。ごめんなさい。七瀬さんの腫瘍はね…。」

そこまで言って、また遮られる。

「お願いします。切除して下さい。」

彼女は泣いていた。

「その人、御主人にレイプされてるんじゃないかしら？」

最初「守秘義務はいいの？」なんて笑いながら聞いていた妻も、途中から険しい顔になり、

一通り話を聞いた後に、そう言った。

「レイプ？夫婦で？」

「そう。レイプって行きずりの人ばかりって訳じゃないのよ。

デートレイプって言葉もある位、友人知人、恋人同士でも、夫婦でも、

一方的に性行為を強要されることが立派にレイプなの。

性的虐待を受けた人って、自分の身体が穢れたモノに感じる事があるのよ。」

妻の姉が性的虐待を受けた女性を支援する活動をしている関係で、なにかにつけてソチラに結び付けられてしまう事に違和感を感じる事も多いのだけど、

今回のケースについては、そう考えると納得がいく。

「でも、乳房をとっちゃいたい！なんて本気で思うこと、女の人であるの？」

「私はないわよ。私は幸せな結婚をしていて、夫から大切にされていて、

だから、自分の身体も愛しいと思えるもの。

でも、これが、夫から暴力みたい無理強いされてたら、

『こんなモノがついてるから、されちゃうんだ！』って思っちゃっても仕方がないと思う。」

児童虐待なら疑いがあつたら通報するのが義務だというけれど、

夫婦間の、そういう虐待があつた場合

- それ以前に、夫婦の間に性的虐待があるのかどうかを他人が立証することが出来るのだろうか。

「その患者さんに、会う事出来ないかしら？」
無理だ。

そんなのは無理だ。

こうして妻と患者のプライベートについて語り合っている事にさえ
罪悪感を覚える。

「じゃあ、カウンセリングを勧めるとか。」

僕の考えを察して妻が言う。

乳癌に限らず、癌患者に不定愁訴があるときにはカウンセリング等
の心のケアを取り入れていく事は大切だ。

しかも乳癌の様な女性性が脅かされるようなケースでは尚更だ。

でも、そこから性的虐待が暴かれた時、彼女はどうなってしまっ
か…。

今でさえ、乳房を全摘出したと言っている彼女が…。

ああ、これだから、患者の顔なんか見るもんじゃない。

つくづく自分が情けなくなつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0254k/>

ノン=セクシュアル

2010年10月14日00時46分発行